



SK-Electronics CO., LTD.

# 第5期 事業報告書

〔平成17年10月1日から  
平成18年9月30日まで〕

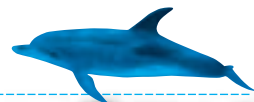
## INDEX

連結財務ハイライト	1
ごあいさつ	2
特集：新社長メッセージ	3
セグメント別概況	7
連結財務諸表の概要	9
個別財務諸表の概要	12
株主の皆様とともに	13
会社・株式の概況	14



株式会社 **エスケーエレクトロニクス**

証券コード：6677



## 売上高

(単位：百万円)



## 営業利益

(単位：百万円)



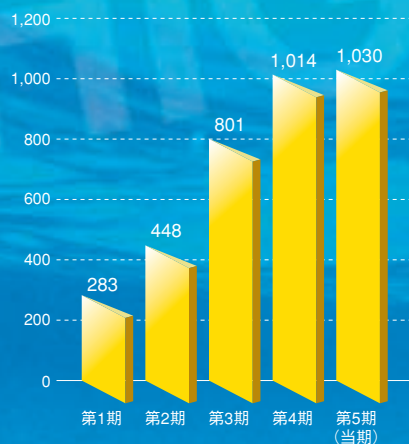
## 経常利益

(単位：百万円)



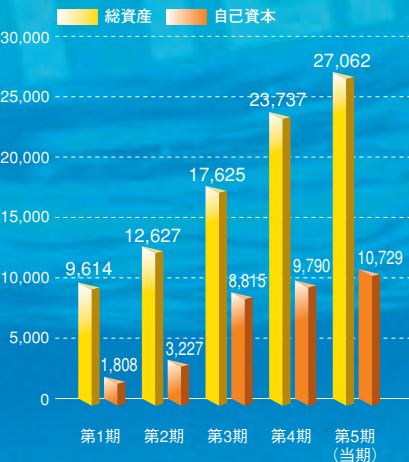
## 当期純利益

(単位：百万円)



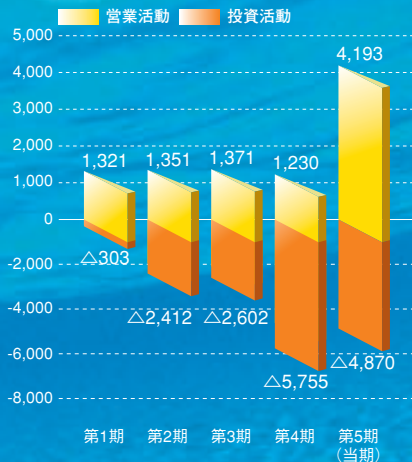
## 総資産・自己資本

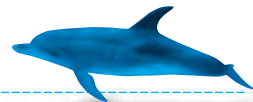
(単位：百万円)



## キャッシュ・フロー

(単位：百万円)





株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素は当社グループに対し格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、既にご承知のことと存じますが、2006年10月、わたくし野上良忠が新たに代表取締役社長に就任いたしました。新しい経営体制のもと、業績向上に最善を尽くし株主の皆様のご期待に沿い得ますよう専心努力いたす所存でございます。

まずはここに、当社第5期(平成17年10月1日から平成18年9月30日まで)の業績をご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

## 厳しい事業環境の中でも純利益は増益を確保

当連結会計年度の当社グループの業績につきましては、当社主力事業であります大型総合フォトマスク事業が、上半期は前期に引き続き大幅な増収を示したものの、下半期は海外液晶パネルメーカーでの在庫過多を起因とした損益の悪化によるフォトマスク需要の減少と、フォトマスクメーカー間のコスト競争激化の影響による価格下落により低調となり、売上高は183億90百万円(前期比23.4%増)となりました。

利益につきましては、営業利益は18億59百万円(前期比10.0%減)、経常利益は18億78百万円(前期比9.3%減)、当期純利益は10億30百万円(前期比1.6%増)となり、前期に比べ増収、営業利益・経常利益は減益、当期純利益は増益となりました。

## 新スローガンの制定

新経営体制のスタートに伴い、当社では新スローガンを制定いたしました。

### 新スローガン

「知恵と情熱による未来価値の創造に向かって」

当社がコアビジネスを展開する液晶関連市場は、いまこの時も目まぐるしい変化を続けています。その中で、技術開発型企業として成長を続けていくには、「スピード経営」の実践に加え、当社の経営理念であります「創造と調和」のもと、社員全員が「知恵と情熱」を胸に、一丸となって未来価値の創造に取り組むことが欠かせません。このスローガンは、そんな私たちの“姿勢”を表現したものであります。

今後、当社は、経営理念に基づく新スローガンのもと、さらなる成長ステージに向け邁進いたす所存であります。株主の皆様におかれましては引き続き、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月



代表取締役社長

野上良忠

# 知恵と情熱による 未来価値の創造に 向かって

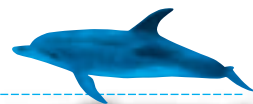
当社では2006年10月1日をもって、専務取締役を務めておりました野上良忠が代表取締役社長に就任、新経営体制が発足しました。設立5年という節目に生まれた新経営体制は今後、新たな成長ステージを目指すこととなります。ここでは、当社が今後進むべき道筋について、新社長の野上がQ&A形式でお答えいたします。

代表取締役社長

**野上良忠** Yoshitada Nogami

1947年3月5日生まれ。59歳。京都工芸繊維大学短大電気工学科卒。

70年、株式会社写真化学に入社。97年、同社取締役電子事業部長。2001年、当社専務取締役。03年、当社専務取締役。06年10月1日より当社代表取締役社長。趣味はクラシック音楽鑑賞。



## さらなる成長が私の責務

# Q1

**Q1** 最初に、就任に当たっての抱負を聞かせて下さい。

社長という立場の責任の重さを痛感しています。株式会社写真化学より分社して5年。台湾での子会社設立、ジャスダック市場への株式上場、久御山事業所新工場の稼働

等、当社は様々な成長戦略を進め、技術的には業界のトップレベルに達しました。それらの成果を収穫し、さらなる成長を目指すのが私の責務だと考えています。

# Q2

**Q2** これまで、一貫して技術畑に携わってきたそうですね。

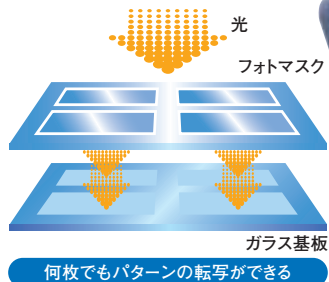
株式会社写真化学時代から技術者として長年、大型フォトマスク製造に携わってきました。液晶ビジネスの黎明期からフォトマスクの技術レベル向上に尽力し、当社の業績拡大にもいささか貢献できたものと自負しています。

当時はまだ第一世代液晶の時代(1988年頃)で、市場

規模も現在の約8分の1程度でした。その後、市場の成長に伴い競合の参入が増えましたが、当社は現在まで一貫して30%程度のシェアをキープしています。これも、私ども社員全員が一丸となって、技術やサービスの向上に取り組んできた成果だと考えております。

### フォトマスク

ガラス基板の上に、電子回路をかたどった複雑な金属パターンを形成したものの。写真でいえばネガフィルムに当たります。液晶パネルなどの製造の際には、このフォトマスクを使って、写真の焼付けの要領でパネルに回路パターンを形成します。



# “3つの課題”達成に全力

## Q3

### Q3 新社長として、これからどのようなことに取り組めますか？

新経営体制のスタートに当たり、新たなスローガンを掲げました。このスローガンのもと、3つの課題に取り組んでまいります。

#### 新スローガン

知恵と情熱による  
未来価値の創造に向かって

#### 3つの課題

- ① 既存事業の商品力と収益性の向上
- ② 新規事業の立ち上げ
- ③ 経営体質の強化

#### ① 既存事業の商品力と収益性の向上

大型総合フォトマスク事業では現在、液晶パネルメーカーからの値下げ要求が強まり、フォトマスクメーカー同士の競合も激しさを増しています。このような中で成長し続けるためには、差別化による商品力の向上と、コスト構造の改善による収益性向上が欠かせません。

当社では、①生産設備の稼働率向上②仕入単価の低減③製造プロセスの改善による内部効率と歩留まりの向上の3つの施策を推進することにより、収益力を高めます。

#### ② 新規事業の立ち上げ

当社の成長を支えている液晶ビジネスも、永遠に伸び続ける訳ではありません。新たな収益源となる新規事業を開拓することは、当社にとってこの2~3年の重要課題のひとつです。

まだ公表できる段階にはありませんが、具体的な案件もございます。その開拓・検討のスピードアップを図り、早期事業化を図ります。

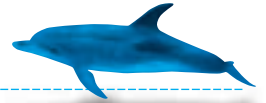
#### ③ 経営体質の強化

当社はこれまで、お客様、社員、株主の皆様、社会などに対し、調和を図りながら“ものづくり”を行ってまいりました。

「エスケーさんなら安心」と言っただけのビジネスをしてきたことが、私たちの誇りです。

これをさらに発展させるためには、経営にもう一段の透明性を確保する必要があります。内部統制、コンプライアンス、情報開示の3つの強化を通じて透明性を高め、皆様から信頼される企業を目指してまいります。





## 市況は上向き、しかし懸念材料も

### Q4 現在の液晶パネル市場の環境をどう捉えていますか？

# Q4

パソコン用モニター分野では昨年より、液晶パネルメーカーに供給過剰感が強まり、液晶テレビ分野でも32インチまでのパネルの在庫が積み上がりましたが、ともに現在は解消されつつある状況です。液晶関連業界そのものは、完全復調ではないものの上向きの状況にあり、2007年には液晶パネル市場も、拡大のペースを取り戻すでしょう。

しかし、懸念される点もあります。まず、各パネルメーカーの第7.5～8世代の生産ラインが近く一斉に動き出し、パネル供給量が急増すること。これにより、需給バランスが再び崩れるかも知れません。そして、パネルの大型化に伴い、大型化技術に対応できるパネルメーカ

ーが絞られてきて取引先が限定されること。そうなると、当社のようなフォトマスクメーカーの成長にも影響が出る可能性があります。

#### インクジェット方式が当社に与える影響

皆様からお問い合わせの多い「インクジェット方式」によるカラーフィルターの製造についてですが、予想範囲内の動きであり、当社への影響は限定的であると考えております。それは通常5枚使用するフォトマスクのうち一部のみが置き換わるのに加え、新たにコストをかけて、既にある償却済みの製造ラインまで切り替わる可能性が低いからです。

## 株主の皆様へ報いるために、さらなるスピードと企業価値向上を

### Q5 そのような中、どのようにして業績を拡大し、株主の皆様へ報いたいのですか？

# Q5

液晶パネルは今後、機能面や価格面などで、各メーカーの独自色が強まるでしょう。当社では技術・コスト・サービスの各面でオリジナルのフォトマスクを提案し、多様化する要求に応えたいと思います。また、当社のコア技術であるフォトリソグラフィ技術は、フラットパネルディスプレイ用のフォトマスクに限らず、エレクトロニクス業界では幅広く利用されており、また応用も可能なことから、視野を広げて、新たな市場を開拓します。

新事業に関しましては、当社の得意とする微細加工技術を応用展開できるビジネスを中心に検討し、早期に立ち上げる計画です。M&A、資本提携、パートナーシップなど形にとらわれず、あらゆる可能性を検討しております。

スピード経営を実践し、これらの施策を通じ企業価値を高めることにより、株主の皆様により多くの利益を還元していきたいと思っております。

## セグメント別概況



# 大型総合フォトマスク事業

当事業は、主に液晶テレビやパソコン・携帯電話等に使用される液晶パネルの製造過程で必要な原版であるフォトマスクの開発・設計・製造・販売を行っております。

当連結会計年度における液晶パネル業界は、上半期までは液晶テレビの旺盛な需要による市場拡大を背景に各社業績は上向き、新パネルの開発や設備投資が積極的に実施されました。しかしながら、下半期に入り、2006年6月にドイツで開催されたサッカーワールドカップによる液晶テレビの需要が想定を下回ったことなどにより、海外液晶パネルメーカーを中心に過剰在庫の状態となりました。そのため液晶パネルの単価下落が起こり液晶パネルメーカー各社の業績を圧迫したため、次期モデルの開発等が抑制されたことに起因して、一般的にフォトマスク需要が減少いたしました。また、フォトマスクメーカー間のコスト競争が激化してきており、フォトマスク単価も想定以上に下落いたしました。

このような状況の中、当社グループはお客様に対して品質・サービス面で差別化できるよう商品力の向上を目指し、グループを挙げて取り組んでまいりました。生産面では、前期新設の久御山事業所新工場に第8世代ライン用の多階調マスク(フォトマスクサイズ 1220mm×1400mm)が量産可能なレーザービーム描画装置(LRS15000-TFT3)を2台増設し、技術開発を行うことで、高水準の品質を要求される製品についても安定的に製造できる技術力、商品力に加え納期対応力についても飛躍的に向上いたしました。営業面では、技術力と生産能力拡大を背景に、技術部門と一体となってお客様に対する技術提案等を行ってまいりました。

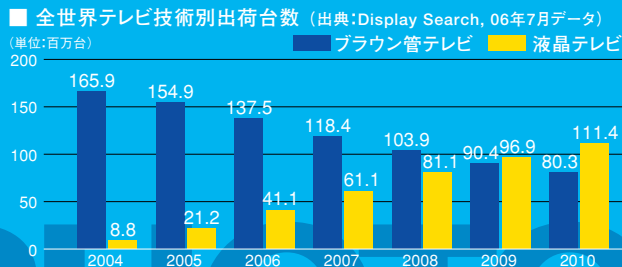
地域別には、国内向け売上は、中小型液晶パネル用フォトマスクがほぼ堅調に推移したことにより、前期比20.8%増

の61億33百万円となりました。また海外向け売上は、上半期は好調に推移したものの、下半期は海外液晶パネルメーカーの業績悪化等の影響を受け、需要が減少したため上半期に比べ減少し、通期では前期比25.9%増の120億76百万円となりました。

製品別には、TFT用フォトマスク売上が、通期では前期比42.8%増の94億84百万円と過去最高の売上を計上いたしました。

その結果、大型総合フォトマスク事業の売上高は182億10百万円(前期比24.1%増)、営業利益は22億51百万円(前期比4.5%減)となりました。

### 2009年には液晶テレビが世界のテレビの主流に



米Display Search社によると、2005年にシェア14%だった薄型テレビは、2010年にはシェアを61%にまで伸ばす見通しです。なかでも液晶テレビは、2009年には、テレビが発明されて以来主流だったブラウン管テレビを、出荷台数で上回るものとみられます。





# 回路検証支援ツール事業

当事業は、エレクトロニクス業界におけるASICやSoCの開発等をより早く実現するための検証支援ツールの開発・設計・製造・販売を行っております。

当連結会計年度におけるLSI業界は、各社業績回復を背景に引き続きデジタル家電の開発が積極的に行われました。

このような状況の中、当社グループは年々大規模化、高速化ニーズが高まる画像・通信系半導体の開発期間を短縮する高速実動評価システム“Accverinos(アキュベリノス)”のシリーズ製品の開発と拡販に引き続き取り組んでまいりました。展示会への積極的な出展等により当社製品に対する認知度が向上したことに加え、半導体開発をされているお客様からの再度のご発注等もいただけるなど当社製品への高い評価も得られました。しかしながら、当期はこのようなお客様からの評価を受注に繋げることができず、当初想定していたほどの成果を上げるにいたりませんでした。

その結果、回路検証支援ツール事業の売上高は1億79百万円(前期比21.5%減)、営業損失は1億35百万円(前期は営業損失1億23百万円)となりました。



ACCVERINOS  
回路検証支援システム

大容量、高速実動を実現した新製品、  
FPGA搭載ベースボード  
「B-20(Virtex-4版)」を発売。

アキュベリノス搭載用の最新ベースボード(基板)です。FPGA(プログラミングが可能なLSI)には、米XILINX社の最新モデル「Virtex-4」を採用。より早く、より安定した検証作業を実現します。

# 連結財務諸表の概要

## 連結貸借対照表

科目	第5期(当期) (平成18年9月30日)	第4期 (平成17年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	1 10,960	9,870
固定資産	2 16,102	13,867
有形固定資産	15,551	13,413
無形固定資産	101	113
投資その他の資産	449	341
資産合計	27,062	23,737

### 1 流動資産

流動資産の増加は、主に現金及び預金の増加および棚卸資産の増加によるものです。

### 2 固定資産

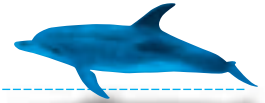
固定資産の増加は、主に久御山事業所新工場での大型フォトマスケ生産設備増強に伴う有形固定資産の増加によるものです。

### 3 流動負債

流動負債の増加は、主に短期借入金の増加によるものです。

(単位:百万円)

科目	第5期(当期) (平成18年9月30日)	第4期 (平成17年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債	3 9,895	8,170
固定負債	4,198	3,793
負債合計	14,094	11,964
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	—	1,983
<b>資本の部</b>		
資本金	—	3,729
資本剰余金	—	3,954
利益剰余金	—	2,131
その他有価証券評価差額金	—	43
為替換算調整勘定	—	△ 21
自己株式	—	△ 47
資本合計	—	9,790
負債、少数株主持分及び資本合計	—	23,737
<b>純資産の部</b>		
株主資本	10,548	—
資本金	3,729	—
資本剰余金	3,954	—
利益剰余金	2,912	—
自己株式	△ 48	—
評価・換算差額等	181	—
その他有価証券評価差額金	86	—
為替換算調整勘定	94	—
少数株主持分	2,239	—
純資産合計	12,968	—
負債及び純資産合計	27,062	—



## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	第5期(当期) (平成17年10月1日から 平成18年9月30日まで)	第4期 (平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで)
売上高	4 18,390	14,897
売上原価	5 14,404	10,941
売上総利益	3,985	3,955
販売費及び一般管理費	2,125	1,888
営業利益	1,859	2,066
営業外収益	180	146
営業外費用	162	143
経常利益	1,878	2,070
特別利益	30	—
特別損失	27	36
税金等調整前当期純利益	1,881	2,033
法人税、住民税及び事業税	452	656
法人税等調整額	106	△ 14
少数株主利益	290	377
当期純利益	1,030	1,014

## 4 売上高

売上高は、大型総合フォトマスク事業において液晶パネル向け市場の拡大と、久御山事業所新工場の設備拡充による生産能力向上等により前期比23.4%増となりました。

## 5 売上原価

売上原価は、売上高の増加に伴う材料費の増加および前期に行った久御山事業所新工場建設等による減価償却費の増加に加え、フォトマスクの販売単価下落の影響により原価率が上昇し、売上高の増加率を上回る前期比31.6%増となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第5期(当期) (平成17年10月1日から 平成18年9月30日まで)	第4期 (平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6 4,193	1,230
投資活動によるキャッシュ・フロー	7 △4,870	△5,755
財務活動によるキャッシュ・フロー	8 1,293	397
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	3
現金及び現金同等物の増加額(減少額(△))	619	△4,123
現金及び現金同等物の期首残高	933	5,057
現金及び現金同等物の期末残高	1,553	933

## 6 営業活動によるキャッシュ・フロー

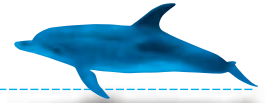
営業活動の結果得られた資金は、主に税金等調整前当期純利益や減価償却費などにより41億93百万円となりました。

## 7 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、久御山事業所新工場の生産能力増強のための最新鋭描画装置導入等により48億70百万円となりました。

## 8 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果増加した資金は、主に短期借入金の純増により12億93百万円となりました。


**連結株主資本等変動計算書**
(平成17年10月1日から  
平成18年9月30日まで)
(単位:百万円)

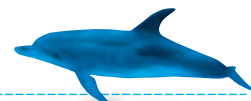
	株 主 資 本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成17年9月30日残高	3,729	3,954	2,131	△47	9,768	43	△21	22	1,983	11,773
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△193		△193			—		△193
利益処分による役員賞与			△51		△51			—		△51
従業員特別賞与金			△4		△4			—		△4
当期純利益			1,030		1,030			—		1,030
自己株式の取得				△1	△1			—		△1
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					—	42	116	159	256	415
連結会計年度中の変動額合計	—	—	781	△1	779	42	116	159	256	1,194
平成18年9月30日残高	3,729	3,954	2,912	△48	10,548	86	94	181	2,239	12,968

(注) 従業員特別賞与金は、連結子会社である頂正科技股份有限公司において発生したものです。



# 個別財務諸表の概要

## Non-consolidated Financial Statements



### 個別貸借対照表

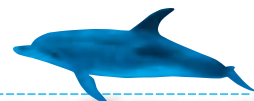
(単位:百万円)

科目	第5期(当期) (平成18年9月30日)	第4期 (平成17年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	8,688	7,930
固定資産	13,251	11,509
有形固定資産	10,748	9,133
無形固定資産	93	94
投資その他の資産	2,409	2,282
資産合計	21,939	19,440
<b>負債の部</b>		
流動負債	8,836	7,606
固定負債	3,449	2,751
負債合計	12,286	10,358
<b>資本の部</b>		
資本金	—	3,729
資本剰余金	—	3,954
資本準備金	—	3,954
利益剰余金	—	1,401
利益準備金	—	21
任意積立金	—	550
当期末処分利益	—	829
その他有価証券評価差額金	—	43
自己株式	—	△47
資本合計	—	9,082
負債及び資本合計	—	19,440
<b>純資産の部</b>		
株主資本	9,566	—
資本金	3,729	—
資本剰余金	3,954	—
利益剰余金	1,931	—
自己株式	△48	—
評価・換算差額等	86	—
その他有価証券評価差額金	86	—
純資産合計	9,653	—
負債及び純資産合計	21,939	—

### 個別損益計算書

(単位:百万円)

科目	第5期(当期) (平成17年10月1日から 平成18年9月30日まで)	第4期 (平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで)
売上高	16,213	13,420
売上原価	13,476	10,915
売上総利益	2,737	2,505
販売費及び一般管理費	1,789	1,600
営業利益	947	904
営業外収益	420	388
営業外費用	131	92
経常利益	1,236	1,199
特別利益	30	—
特別損失	19	36
税引前当期純利益	1,247	1,163
法人税、住民税及び事業税	349	537
法人税等調整額	122	△14
当期純利益	774	640
前期繰越利益	—	189
当期末処分利益	—	829



## 株主の皆様とのより良い関係を目指して、当社はこれからも一層の努力をまいります。

当社では、株主の皆様のご意見、ご要望を経営に反映させるため、継続的に、事業報告書送付時にアンケート調査へのご協力をお願いしています。今後も、頂戴した貴重なご意見、ご要望の数々は、経営に積極的に活用させていただきたいと考えております。

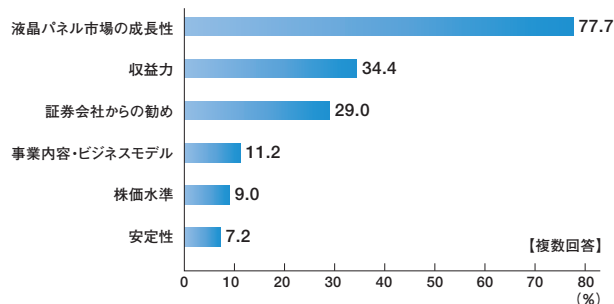
また、当社を取りまく業界の動向や今後の展開について、正

確にお伝えすることを重視し、1年に2回お送りしているこの事業報告書をよりわかりやすく充実させるとともに、今後も個人投資家説明会の開催、ホームページの充実、新聞や雑誌への広告掲載など、広報IR活動に努めてまいります。

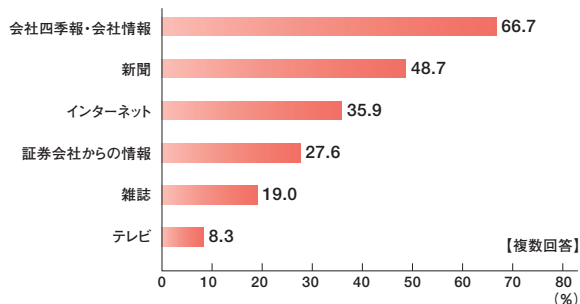
以下に前回（平成18年6月実施）のアンケート結果の一部をご紹介します。

### 前回のアンケートより

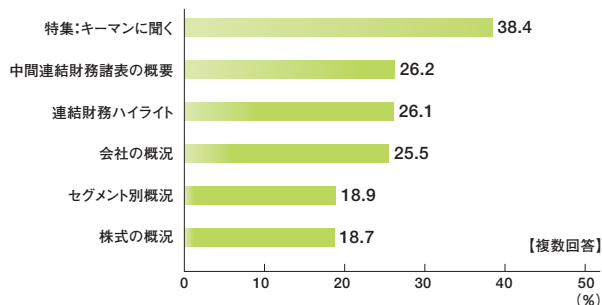
#### 当社株式を購入された理由



#### 現在投資している企業の情報の入手手段



#### 前回の中間事業報告書の中で興味を持たれた内容

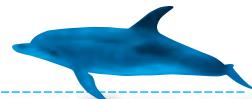


#### ご意見・ご要望（抜粋）

- フォトマスク事業以外の事業でも売上高および利益の拡大を期待する。
- 株価が少しずつでも上昇を続けるには技術革新を続けることが必要、期待して保有を続ける。
- 将来性に大いに期待している。京都銘柄には特異な会社が多いので、独自性を発揮していただきたい。
- 最近、事業報告書がわかりやすくなった。

# 会社・株式の概況 (平成18年9月30日現在)

## Company & Stock Information



### 会社概要

社名 株式会社エスケーエレクトロニクス  
SK-Electronics CO.,LTD.  
設立 平成13年10月1日  
資本金 3,729,025千円  
本社 〒602-0955 京都市上京区東堀川通り  
一条上ル豎富田町436番地の2  
TEL: (075) 441-2333(代)  
FAX: (075) 441-4291  
従業員数 154名  
事業内容 ・大型総合フォトマスク事業  
・回路検証支援ツール事業

### 取締役および監査役 (平成18年12月22日現在)

取締役会長	石田 敬輔
代表取締役社長	野上 良忠
常務取締役	石田 昌徳
取締役	古乙 志臣
取締役	小関 利明
取締役	堀内 秀夫
取締役	小谷 秀昭
監査役(常勤)	小川 義明
監査役	堀川 庸介
	堀川 和広
	堀川 修史

### 事業所

東京営業所 〒105-0004 東京都港区新橋1丁目18番16号  
日本生命新橋ビル6階  
TEL: (03) 3519-6390(代) FAX: (03) 3519-6391

久御山事業所 〒613-0035 京都府久世郡久御山町下津屋富ノ城  
62番地の1  
TEL: (0774) 44-2921(代) FAX: (0774) 48-2163

横浜R&Dセンター 〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸2丁目  
3番19号日総第8ビル5階  
TEL: (045) 317-2068(代) FAX: (045) 313-4610

### 海外子会社

頂正科技股份有限公司 (Finex CO.,LTD.)  
(大型フォトマスクの製造・販売)

SKE KOREA CO.,LTD.  
(大型フォトマスクの販売)

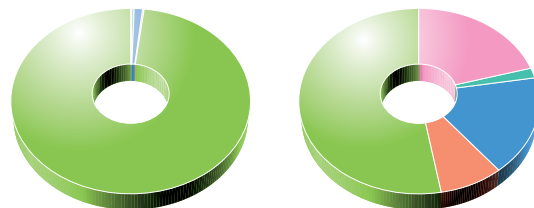
### 株式の状況

発行可能株式総数 ----- 327,600株  
発行済株式の総数 ----- 108,000株  
株主数 ----- 8,826名

### 所有者別株式分布

[株主数別]

[所有株式数別]



	株主数別	所有株式数別
金融機関	16名 0.18%	22,199.00株 20.56%
証券会社	29名 0.33%	1,924.00株 1.78%
その他国内法人	108名 1.22%	18,297.25株 16.94%
外国法人等	21名 0.24%	8,594.00株 7.96%
個人その他	8,652名 98.03%	56,985.75株 52.76%
合計	8,826名 100.00%	108,000.00株 100.00%

## 株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
配当金受領株主確定日	毎年9月30日 (なお、中間配当を実施するときは毎年3月31日といたします。)
基準日	定時株主総会については毎年9月30日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、やむを得ない事由により電子公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 (公告掲載URL <a href="http://www.sk-el.co.jp/top.html">http://www.sk-el.co.jp/top.html</a> )
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
(インターネットホームページURL)	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店

### エスケーエレクトロニクス ホームページ

<http://www.sk-el.co.jp/>

会社情報をはじめ製品案内等、様々なコンテンツをご用意しています。  
当社をより知っていただくために、ぜひご利用ください。



TOPページ



TOPページより  
「IR 情報」をクリック



IR 情報ページ  
<http://www.sk-el.co.jp/top.html>